

1 LDL - C 測定試薬「メタボリード L LDL  
2 - C」の有用性の検討  
3

4 唐川遥輔 淵上孝一 平野繁治 上野芳人 (新都市  
5 医療研究会君津会 玄々堂君津病院)

6 Key words: LDL-C 直接法、糖尿病患者  
7

8 【目的】LDL - C 測定試薬「メタボリード L LDL - C」  
9 の基礎的性能を確認する。また糖尿病患者検体を測  
10 定し、その臨床的有用性について検討する。

11 【方法】1. 対象：当院通院患者のうち糖尿病患者  
12 1800 例 2. 測定試薬：LDL-C 測定試薬は、メタボリ  
13 ード L LDL - C (ML 試薬、協和メデックス)、コレス  
14 テスト LDL-C (ルーチン試薬、積水メディカル)、デ  
15 タミナー L LDL-C (DT 試薬 協和メデックス) を用  
16 いた。比較対照法として BQ 法 (コレステロールの測  
17 定は酵素法を用いて測定する簡便法) を用いた。

18 【結果】1. ML 試薬の基礎性能：日立 7180 を使用  
19 した結果、同時再現性及び日差再現性は良好であっ  
20 た。希釈直線性は、600mg/dL 以上の直線性を確認し  
21 た。干渉物質の影響を実施したところ、影響は認め  
22 られなかった。2. 相関性の評価：糖尿病患者 1800  
23 例の回帰分析より求めた結果は、ML 試薬とルーチン  
24 試薬および DT 試薬とはいずれも相関係数 (r) 0.96、  
25 回帰式の傾きは 0.98 以上であったが、20mg/dL 以上  
26 乖離した検体が約 2% 見られた。3. 乖離検体の解  
27 析：乖離した検体について BQ 法を実施して比較した  
28 ところ、ルーチン試薬と DT 試薬においてバラつきが  
29 大きい傾向が見られたのに対し、ML 試薬では BQ 法  
30 と整合性が高い結果であった。

31 【結語】糖尿病群では LDL-C 測定試薬間で大きな乖  
32 離が見られた。また各 LDL-C 測定試薬によって BQ  
33 法との乖離の程度が異なる事が示唆された。新たに  
34 開発した ML 試薬は、基礎性能が良好であり、各試薬  
35 間で乖離する糖尿病検体の測定値が最も BQ 法に近  
36 く LDL-C に対する良好な特異性を有していることが  
37 示唆された。